



読字故原田 親

No. 645

2011/8/15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒151-0853 東京都千代田区
西船場1-1-1 船場ビル433室

日中友好協会
岡山支部
〒700-8256
岡山市区3-8-30 511
TEL:0861272-3010
郵便番号11所
01250-04-3935

日中友好協会
倉敷支部
〒713-9914
倉敷市港島中央1-8-1
(宮地方)
TEL:FA30861416-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



子どものお弁当(日中女性サロン)

貝吹佳代子

こんなに上手に つくれました。

6月19日、高島公民館で「子供のためのお弁当作り」と題して、以前より帰国者の若いお母さん達から「日本のお弁当はきれいだし、特に子供のお弁当はかわいいので、女性サロンでしてほしい」という声があり、やっと実現することができました。

はやりのキアラ弁には少し遠いですが、家にある野菜など持ち寄って作りました。私たちも何十年前を思い出しながら、ワイワイガヤガヤの楽しい時間でした。

私は、6月19日に高島公民館で開かれた、日中女性サロン主催の「子供用弁当の作り方教室」に参加しました。その日参加したのは9人で、先生が2人、生徒が4人、子供が3人です。日本のお弁当は色飾りがすごくきれいだから「私たちは、子供のためにこんなきれいなお弁当を作りたい」と思い、先生たちにたのんで教えてもらいました。

子供用弁当のメニュー

は、卵焼きとそばろ、万能アン、ウインナ、肉団子、ポテトなどいっぱい作りました。万能アンは、人参と玉ねぎとキノコをみじん切り、醤油とケチャップで味付け、炒めました。ウインナは、タコのように焼きました。可愛い形で作りました。肉団子はケチャップあんが味付けしました。あとは、アスパラをベーコンで巻き焼きました。可愛くておいしいものができました。

その他に、中華料理も



左から4人目の子供を抱えている人が今岡愛子さんです。

作りました。ジャガイモとセロリの炒め、ナスと玉ねぎの炒めです。貝吹先生と宇垣先生の指導で、うまくできました。子供と一緒に美味しく食べました。みんなと一緒に楽しく一日を過ごしました。

中国帰国者 今岡愛子

中国帰国者中国・四国 交流センター主催

異文化交流会

さる6月25日、岡山市芳田公民館で中国・四国交流センター主催の「異文化交流会」が開催され、西市地域に住んでいる中国帰国者と公民館利用者、岡山市の関係者など32人が参加しました。日中岡山からは、私と貝吹理事が参加しました。会は、岡山市の中国残留邦人支援・相談員の石黒さんが中国帰国者のみなさんと本場の水餃子を作り、交流しましょう」の呼びかけのもとに開かれました。料理づくりは、中国語と日本語が交錯し、笑い声の絶えない楽しい雰囲気が進められました。出来立ての水餃子などの料理を美味しくいただき、草の根の日中交流ができました。

小林軍治

台湾旅行 ⑤

谷川浩文

その日の晩に泊まるチーペン温泉に向かうため、ひたすら長時間バスに揺られることになる。級友はすやすや寝ている。車窓から看板の文字で気になるものがあつた。檳榔である。どこの店をみても必ず書いてある。あとでわかったが「ゼンロウ」という覚醒作用のある食べ物でくちや、くちやとドライバールが眠気覚ましに嘔吐物だそう。水着やセクシーな衣装に身を包んだ売り子がドライバールのところに売りに来て、セクシー度、年齢の若さに応じて値段もかなり違うそう。途中、北回歸線の付近のパーキングエリアで休憩を取ることになった。北回歸線とは、熱帯と亜熱帯の境界線

を指すらしい。少し物知りになった。トイレに行った後、無性にジュースが欲しくなった。空港で両替してから2日目の午後三時までの間に使ったお金はわずか60元(約180円)のみ。お金を自販機に投入し、ボタンを押す。出てこない。おかしいなあ。もう一回。あれ??? 仕方がないので、返却レバーを2回倒すと、ジャラー・ジャラー!!!とお金が出た。数えたら100元以上あつた。多分出てこなかったジュースをあきらめた人のお金であろう。2日目午後三時現在、持ってきたお金より若干増えてしまった。カジノに来た錯覚に陥った。

[太極拳]劣等生のひとりごと パート⑤

小坂信代

=「沈肩垂肘」仕事でも活かしたい=

太極拳を始めて最初に思ったのは、私の働いている施設の重度に障害のある利用者の事です。ほとんどの方が脳性まひや病気で、自由に身体を動かす事ができなくて、食事。排泄。寝返り。呼吸まで、人や機械の力を借りないと生きていけないのです。

施設ではDr・看護師。保育士などで日々の介護をしています。理学療法士や作業療法士もいて、楽な安定した姿勢の確保ができるポジショニング方法の指導をしてくれます。マッサージやリハビリの時間もあり、大きなボールや身体に合ったマット等を使って身体の緊張をほぐしてもらっています。

太極拳に行くと「沈肩垂肘」といつもいわれます。私は動きがわからないまま、不要な所に力が入り緊張しているのです。同じようにバイクに乗ったり、苦手なパソコンをしていると肩や背中がカチカチになりとても疲れます。

利用者の介助で更衣等をする時「せめて自力で腕の力がぬけたり、姿勢が変えられたら楽になるのにね」と思っています。ベッドに寝ているだけでもしんどそうです。それでも、大好きな家族の介助を受けてる時や、静かな安心できる環境設定をしていると、緊張がゆるんでいる時があります。私が、身体の力がぬけてゆったり太極拳ができたらうれしいように、利用者がリラックスできるよう、ゆったり、ゆっくり声かけをしながら、利用者の想い(願い)を感じられるスタッフでありたいと思っています。

岡山東商業高等学校

人権教育講演会

はじめに

6月21日、岡山県立岡山東商業高等学校の体育館で、二年生の生徒、教職員、保護者約三三〇人を対象に、人権教育講演会が開催されました。

この講演会の趣旨は、中国

残留日本人孤児問題の学習を通して、生徒たちの人権意識を高め、人権問題を自らの問題としてとらえてその解決に取り組もうとする実践的態度を養う。」です。

私たちがこの会に参加したのは、二〇〇七年に高見英夫さんが中国残留日本人孤児からの訴え。」と題して、自分の体験



を通訳付きで話したのが最初です。二〇〇八年から二〇一一年までは、高杉久治さんが講師を務めました。二〇〇九年から高杉さんは、通訳なしで日本語で話しています。私は最初から解説者として参加してきました。

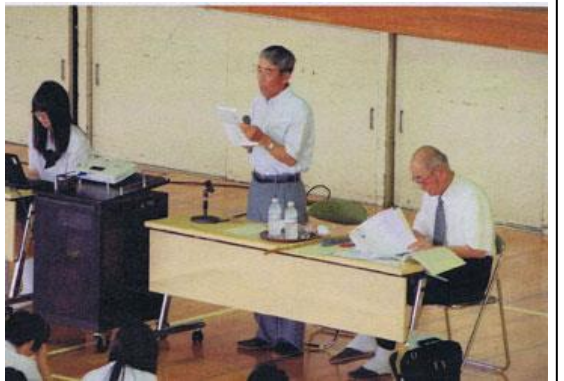
講演の内容

今回、高杉さんは一部(中国で養父母に引き取られて成長し、肉親捜しの努力など中国での生活)と二部(日本に帰国してからの日本語学習、生活の苦労、なぜ政府を相手に訴訟を起したのかなど)に分けて話し、最後に「生徒のみなさんに、ぜひ、中国語を勉強し、中国に関心を持つてほしい。また少しでも日中友好を考えてもらいたい。」と訴えました。

私は、生徒が操作する提示用スライドを活用して、自分の体験をもとに時代背景を解説し、歴史認識や死者の数など数字の見方について話しました。

生徒は、午後の暑い体育館の床に座ったまま、最後まで熱心に聞いてくれました。

小林軍治



生徒の感想文の紹介

一、中国へのイメージがかわった。

◎私は今日中国残留日本人孤児の方の生の声を聞いて、こんな恐ろしいことがあったんだと改めて知ることができました。4才の時にソ連に襲われ、弟と離ればなれになったと聞いてとてもびっくりしました。今では小さいときの記憶はないとおっしゃっていましたが、当時は相当怖かったのではないかと思います。それと同時に家族と離れてしまった悲しみも大きかったと思います。そんな中やさしい養父母に引き取られて本当によかったなと思いました。中国残留日本人孤児なのに、ましてや自分の子供じゃないのに実の子供のように育ててくれたのは、高杉さん本人にも誰にでも愛される愛嬌があったからではないかと思えます。冬になるといつもマフラーや帽子を編んでくれたと聞いてとても感動しました。そしてさまざまな困難、

問題を乗り越えながら父親に日本と再会することができたのは高杉さんの「逢いたい」という強い意志がそうさせてくれたのではないかと思えます。自分のいやな過去を思いだすのは苦しいだろうし辛いだろうと思うけど、次の世代に伝えるために必死で慣れない日本語で出来事を語ってくれた高杉さんに本当に心を打たれました。これから頑張つてほしいです。

◎高杉さんのお話を聞いて、中国と日本という国の見方が変わりました。中国といえばあまりいいイメージがないというのが本当のところなんです。高杉さんは本当にいい中国の方と会えたんだなと思いました。日本人だということに気にせず本当の子どもの様に育てて大変なこと多かったと思います。だからそれぞれの国で人を見るのではなく、その一人の人としてみようと感じました。

私と「中国帰国者」研究

京都大学 京大 研究員 国立民族学博物館 外来研究員

南 誠(梁雪江)

① 「中国帰国者」

研究を志す

1976年の中国は、波乱に満ちた文化大革命の終結を迎えていました。その年に、私は、日本国埼玉県中川村開拓団がかつて入植していた村で生まれました。しかしその村の歴史を意識するようになったのは、2000年早稲田大学大学院の修士課程に入学してからのことです。当時の恩師小林英夫先生が満洲移民研究の先駆者であり、その教えを通じて、私はかつての満洲と中国東北地域の歴史、満洲移民と中国帰国者を考えるようになりました。そして中国残留婦人を祖母にもつ私は躊躇することなく、自分に

最も関係のある中国帰国者を研究対象に選びました。

2003年、私は京都大学大学院の博士後期課程に編入学して、中国帰国者研究を本格的にスタートしました。中国帰国者研究を志す目標は、当時の編入学志願書に書いてありました。それによれば、中国帰国者のひとりとして、その歴史に参与し、自らの主体性を明らかにするために、中国帰国者がいかに過去を総括し、現在の位置を見定め、未来への方向を設定しうるかについて考えることです。

京都大学の博士課程に編入学してから、在学期間中も日本学術振興会特別研究員の時も、私はこの目標をめざして調査活動を行ってきました。その



「おokayama」 機関紙コンクールで 優秀賞

日中友好協会第60回全国大会記念機関紙コンクールで、日中岡山支部の日中友好新聞付録の「おokayama」が、優秀賞をいただきました。

調査活動を元に、博士学位申請論文「中国帰国者をめぐる包摂と排除の歴史社会学」を執筆し、京都大学に提出しました。2011年5月、学位を授与されました。そして中国帰国者研究をさらに深めるために、岡山市を訪れました。(続く)

次回の新聞発送作業は
9月1日(木)午後1時半、
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方です。

葉内和
稲竹内
竹谷口